



本校の校章は、ギリシャ神話の神ヘルメス(ローマ神話ではマーキュリー)の持つ神杖カデュシヤスをかたどったものです。この神は、商業の神様であり平和・医術もつかさどる神様でもあります。従って、このような形の校章は全国の商業学校の校章として広く使われていますが、我が国で最初にこのカデュシヤスを校章として使用したのは東京商業学校(現在の一橋大学)でした。

記録(下商七十年史・百年史など)によると、本校の校章は、帽章としてカデュシヤスが使用されていた最古の資料は、明治三十一年三月二十三日に撮影された明治三十年(第十二期)卒業生の写真となります。全員が帽子を着用して帽章にカデュシヤスが付けてあり、彼らの入学時(明治二十七年)には制定されているように伺えます。但し、その当時は現在のような制服の規定があるわけではなく(入学時は和服や洋服など疎らな状態)、正式には明治三十一年もしくは三十三年との説がありますが、本校の客観的な記録として信憑性の高い下商百年史からみても明治三十一年が妥当と思われるかと。

明治三十六年には、新調した校旗の授受式(市で新調して市長から学校に交付)が二月二十一日に挙行されました。紫色の塩瀬地の中央に白くカデュシヤスを染め抜かれ、周囲にフレンジを付けたもので、京都の老舗で高島屋呉服店

に特別によって調整されたものでありました。因みに、この校旗に紫色を使用したから、以来、紫色を本校のスクールカラーとしたようです。また、現在の校旗は、創立百周年(昭和五十九年)を記念に新調されたもので、当時の相場でもかなり高額(推定三百万円)なものでした。

カデュシヤスを使用した経緯については、本校は、開校当時から幹部教員が一橋出身者中心であり、一橋で使用されていた校章を模したことは想像がつきます。但し、一橋はこれにCCと入っています。が、本校は純然たるカデュシヤスだけで非常にシンプルです。全国に先駆けてこの校章を制定した(全国の学校で一橋・東京大学に次いで三番目に校章を制定)から、他の商業学校と違って分かり易いものとなっております。

ところで、この校章の持つ意味を第八代校長の斎藤軍八郎先生は、「杖は内剛の徳を表し、蛇は外柔の智を表し、羽翼は敏を表す。すなわちこの表象は真の商業家の生命なり。」と説いておられます。つまり、マーキュリーの杖に絡まる蛇とその頂の翼は、知性と温和の表象だけではなく、「叡智と平和」の理想として読み取ることによって、叡智の上に立った自由の精神を堅く持つて世界の恒久平和を目指し、我が国を始めとして世界秩序に寄与するといった崇高な精神が宿っていることを生徒の皆さんも知っておいて欲しいと思います。

次回、ほぼこの頃に制定された本校の特色あるクラス名(現在は、仁・義・礼・智・信・和・浄)についてその経緯・由来などを紹介してみたいと思います。お楽しみに。

命なり。」と説いておられます。つまり、マーキュリーの杖に絡まる蛇とその頂の翼は、知性と温和の表象だけではなく、「叡智と平和」の理想として読み取ることによって、叡智の上に立った自由の精神を堅く持つて世界の恒久平和を目指し、我が国を始めとして世界秩序に寄与するといった崇高な精神が宿っていることを生徒の皆さんも知っておいて欲しいと思います。



本校の古い校章



一橋大学の校章